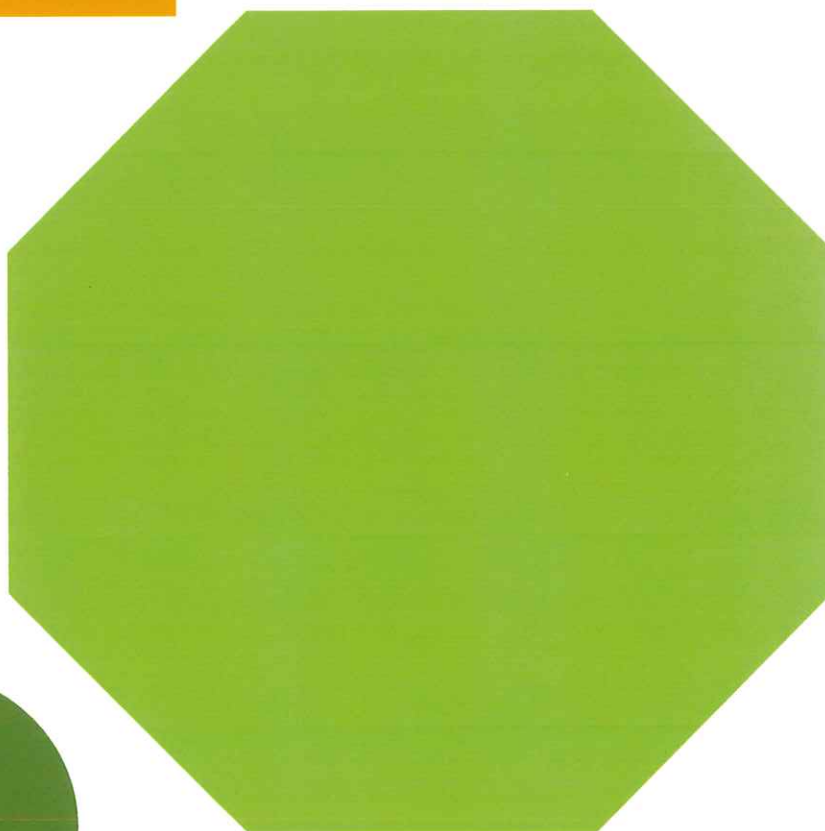
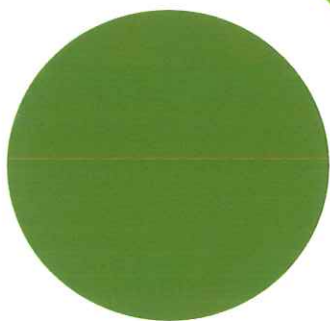


令和6年度 東方文化自由研究

群馬県の八角墳について

～ 八角形の意味と、埋葬者を考える ～



前橋市立富士見中学校
1年4組 久保琴音

提出日 令和6年8月26日

1. 研究の動機

八角墳の存在を知ったきっかけは、吉岡町の三津屋古墳だ。小学生の時、群馬県が配布している「古墳カード」の中に三津屋古墳があり、私は八角形のその形にとっても興味をもった。調べてみると八角形墳は珍しく、全国でも十数例(八角形が確定している古墳は数例)しか存在していない。そして、七世紀中ごろから八世紀初めまでに即位した天皇やその親族のみに造られていた事を知った。

さらに群馬県には三津屋古墳の他に3基の八角墳が存在することがわかり、また発掘調査のもとに復元された事例は奈良県にある牽牛子塚古墳と三津屋古墳だけということもわかった。

大和から離れた地方の上毛野になぜ八角墳が存在するのか、天皇やその親族を関係はあるのか調べてみることにした。



牽牛子塚古墳
(奈良県明日香村)
2023.11.4撮影



三津屋古墳
(群馬県北群馬郡吉岡町)
2024.8.14撮影

全国の八角形墳(推定も含む)

場所		古墳名	築造時期
京都府	京都市山科区	御廟野古墳(天智天皇陵)	7世紀末～8世紀初
奈良県	桜井市忍坂	段ノ塚古墳(舒明天皇陵)	7世紀中頃
	明日香村	牽牛子塚古墳(齊明天皇・間人皇女合葬陵)	7世紀後半
	明日香村	野口王基古墳(天武・持統天皇合葬陵)	7世紀後半
	明日香村	中尾山古墳(文武天皇陵の可能性が高い)	8世紀初頭
	明日香村	岩屋山古墳	7世紀中葉
	高市郡高取町	束明神古墳	7世紀後半
大阪府	茨木市桑原	桑原遺跡 C-3号墳	7世紀前半～中葉
広島市	福山市新市町	尾市1号墳	7世紀後半
兵庫県	宝塚市中山荘園	中山荘園古墳	7世紀後半
山梨県	笛吹市一宮町	経塚古墳	7世紀前半
東京都	多摩市百草	稲荷塚古墳	7世紀前半
茨城県	水戸市元吉田町	吉田古墳	7世紀中葉
群馬県	北群馬郡吉岡町	三津屋古墳	7世紀後半
	藤岡市上落合	伊勢塚古墳	6世紀末頃
	高崎市吉井町	一本杉古墳	7世紀前半
	桐生市新里町	武井廃寺塔跡	奈良時代

2. 八角墳について

有力者の墓として全国的に広く分布していた前方後円墳は、古墳時代の終末期(6世紀末から7世紀の飛鳥時代)終末をむかえ、その階層の人々の墓は大型の円墳や方墳に変化していく。その中で7世紀半ばになると、大王や親族の墓として八角墳が築かれた。それではなぜ「八角形」なのか。

八角形は道教や古代中国の政治思想に由来し、**支配者にふさわしい形の八角形**を古墳の形にしたとみられる。調べていくと、万葉集の枕詞に「やすみしし」があり、その「やすみ」を、万葉集で「**八隅**」と表記したものが分かった。これは【**天皇の統治する国の四方八方のすみずみ**】を表していて、天皇と八角形の関係を示す一つだと思った。もうひとつは6世紀半ばに日本に伝わった仏教の影響だ。法隆寺夢殿のような**八角円堂**を模したと考えられる説がある。

高御座(たかみくら)

高御座は奈良時代から天皇の即位に関する重要な儀式で使われてきた。八角形の天蓋が設けられている。(NHK NEWS WEBより引用)



法隆寺夢殿

八角形の小堂。聖徳太子の住まいであった斑鳩宮に太子供養の為に建立した。(2023.11.5撮影)



3. 群馬県内にある古墳

群馬県内の八角墳として

- ・伊勢塚古墳 (藤岡市上落合)・一本杉古墳(高崎市吉井町)
 - ・三津屋古墳(北群馬郡吉岡町)・武井廃寺跡(桐生市新里町)
- の4基があげられる。

まず、下記の方法で古墳の詳細内容を調査し、わかりやすく把握する為にも表(次ページ)にまとめた。その後、各古墳についてまとめる事とした。

◇調査方法

- (1)実際に現地へ行く。
- (2)図書館、各古墳の関係施設へ行き、図面を確認し資料や書籍を集める。
- (3)自治体や博物館の古墳に関する情報をインターネットで検索し、確認する。かつ不明な点は実際にメールや電話で問い合わせる。



2024.8.15 藤岡歴史館



2024.8.15 吉岡町文化財センター

群馬県の八角形墳

古墳名	伊勢塚古墳	一本杉古墳	武井廃寺塔跡	三津屋古墳
所在地	藤岡市上落合字岡318ほか	高崎市吉井町字神保264	桐生市新里町武井598	北群馬郡吉岡町大字大久保字三津屋2037-1
年代	6世紀末～7世紀初め	7世紀前半	奈良時代	7世紀後半
指定	群馬県指定史跡 (昭和48年8月21日)	高崎市指定史跡 (平成13年11月22日指定)	国指定史跡 (昭和16年1月27日)	群馬県指定史跡 (平成7年3月24日指定)
被葬者(推定)	前方後円墳に次ぐ高い地位の人	神保古墳群を残した村社会の中でも有力家族	一帯に勢力のあった一族(新川臣一族?)	一帯に勢力のあった豪族?
形	不整八角形?	正八角墳(長八角墳の可能性も有)	正八角形	正八角形
大きさ等	1段目は不整八角形、2段目は円形 径27.2m 高さ6m	2段築造で下段は長辺が9m、短辺が約6.35m 上段は円墳で対角長東西18.5m、同南北21m	3段の基壇上に心礎が据えられている。頂上形状:下直径123m 高さ17.5m 上面直径105m 基壇:約18m 高さ約2m	第1段の対角間約23.8m 第2段が約15.7m 高さ約4.5m以上
石室	両袖型横穴式石室	両袖型横穴式石室	石室は無く、基壇上に骨蔵器とされる石造物	両袖型横穴式石室
出土遺物等	埴輪・須恵器	須恵器破片・大刀・金銅製板張木製品・鉄輪破片・刀子破片・鉄製金具・金環・ガラス製小玉・人骨19体分	薄手の須恵器破片・鉄破片 基壇上にある骨蔵器と考えられる石造物	盗掘を受けたため副葬品は残っていない
近隣の古墳	白石古墳群の1基	神保古墳群の1基	約230m南東に中越古墳	約2.2km北西に南下古墳群、周辺に古墳多数



- ① 伊勢塚古墳
- ② 一本杉古墳
- ③ 武井廃寺塔跡
- ④ 三津屋古墳

3-(1) 伊勢塚古墳(6世紀末頃)

藤岡市上落合字岡318ほか

不整八角形

伊勢塚古墳は3年ぶりの見学だが、以前墳丘上にあった大木が無くなっていた。前回の見学では「円墳」という知識だったので、(群馬県で配布の古墳カードには円墳との記載があった)八角形墳の可能性があると驚いた。

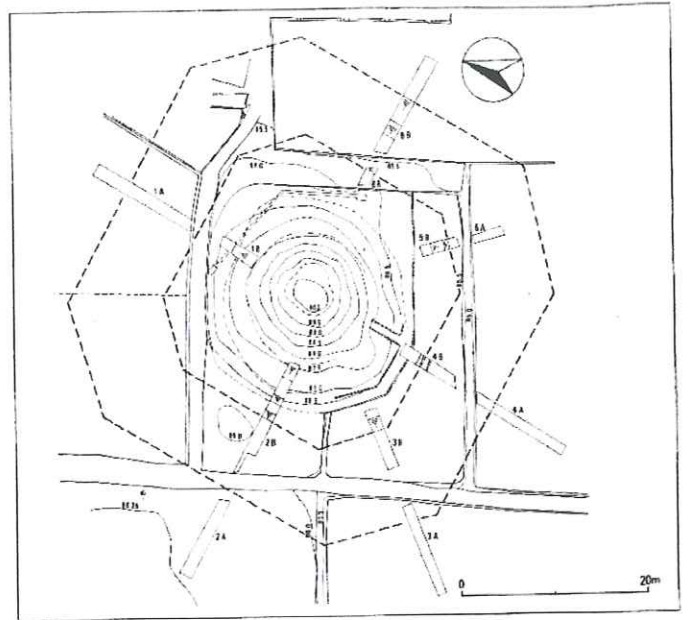
白石古墳群の1基である伊勢塚古墳の周辺には、前方後円墳20基を含めた約260基の古墳が築かれている。

この地域は安閑天皇二年条に緑埜屯倉(みどのみやけ)が置かれた(※1)の記述があり、管理していたのは渡来系氏族ではないかという考えがあるようだ。

伊勢塚古墳の墳丘は最大の特徴は「模様積み」と呼ばれる横穴室石室で、丸石(けい石)と棒状の石(結晶片石)を組み合わせさせて造られている。群馬県藤岡市から埼玉県児玉群に分布するこの「模様積石室」の中では仕上がりが一番精工であり、石室内の規模の大きさを考えると、地域の有力な人物が埋葬されている可能性が高い。そして天皇やその親族の可能性は6世紀後半の築造からかなり低いように思う。

もし、埋葬者が渡来系の人物だとすると、八角形で造られたのは大陸の文化の影響や、仏教の影響があるのかもしれない。

なお、藤岡資料館の職員の方からは近年の研究からは八角墳の可能性は低いとのことのお話をいただいた。



伊勢塚古墳 範囲確定調査報告書Ⅲ より引用

※1 安閑天皇(崩御の536年?)治世の出来事として関東から九州までの屯倉の大量設置と41箇所の屯倉の名が書かれていた。屯倉とは大和政権の支配制度の一つで全国に設置した直轄地を表す語。



石室入口



石積からは円ではなく、角度が付いているように見える?



2024.8.15 南側から撮影

3-(2) 一本杉古墳(7世紀前半)

高崎市吉井町字神保264

正八角形(長八角形の可能性の有)

一本杉古墳は6世紀後半から7世紀を中心に形成された計71基からなる神保古墳群に属していて、昭和35年に墳丘の一部と石室の発掘調査が行われている。

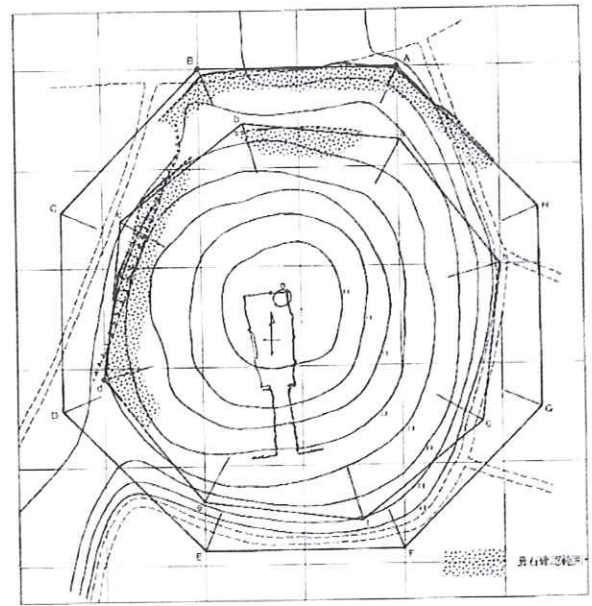
東側から南側の墳丘裾部は削平され、西側から北側の墳丘裾部は若干埋没している形状だったようだ。現地は畑に囲まれ木の柵があり、古墳全体を確認することが出来なかったが、かなり変形しているように見受けられた。

遺物として大刀2点・金銅製板張木製品(大刀鞘尻部)・鉄輪破片等があることや埋葬人骨の数から神保古墳群の中でも有力家族の墳墓ではないかと考えられる。

先述した、藤岡市の伊勢塚古墳は7kmほどの場所にあり、一本杉古墳とは横穴式石室の構造に類似性が認められている。

この地の住人が渡来系氏族ではないとしても、なんらかの交流があり、新しい文化の影響を受けたことにより、有力者として墳墓に装飾として八角形を採用したのではないかと考えられる。

インターネットの情報で、出土遺物が群馬県立博物館に所蔵されているという記載があったため問い合わせたところ、「直刀・鞘の一部・須恵器が収蔵されています。」との返答をいただいた。現在、展示室では公開していないとの事なので、見ることは出来なかったが機会があれば見てみたい。



一本杉古墳墳丘図及び八角形墳丘推定復元(方眼スケール=4.5m)

(考古学ジャーナル414,1997より引用)



古墳名は一本杉古墳だが、墳丘の木は杉では無かった。

南西側より 2024.8.13 撮影



墳丘上には祠に2つ建っていた。

南東側より 2024.8.13 撮影

3-(3)武井廃寺塔跡(奈良時代)

桐生市新里町武井598

正八角形

武井廃寺塔跡は、大正4～5年頃に近隣の住人が散歩のうちに発見した。郷土研究者の尽力により当時の内務省に認められ、昭和16年に国指定史跡になった。当初、頂上にある円錐状の加工物(図面横の写真)は塔の心礎であるという見解から古代の寺院と考えられていたが、断定とすることには長い間疑問視されていた。

昭和44年の発掘調査で八角形の石積の墳丘が発見され、特殊な構造や中心礎石の周りに建物の礎石が発見されなかった等から、仏教の影響である火葬墓とする説が有力視されている。頂上の円錐状の石製加工物は骨蔵器であり、中央の穴に被葬者の遺骨が容器とともに納められていたものとする。

尚、奈良県の八角墳である、野口王墓古墳(天武・持統天皇合葬陵)の持統天皇、中尾山古墳(文武天皇陵?)の埋葬者は火葬されている。

武井廃寺塔跡から南へ徒歩3分程度の箇所に、7世紀後半ごろ築造された「中塚古墳」がある。高崎市山名町の山ノ上碑の碑文には新川臣(中塚古墳がある地名は桐生市新里町新川)と大兄臣の関係や系譜が記されており、新川臣が埋葬されているのではないかとの説がある。そのことから、すぐ近くに築造された武井廃寺塔跡の埋葬者も新川臣にゆかりのある人物と推測される。



基壇上にある骨蔵器と考えられる石造物
中央の穴は深さ44cmで雨水が溜まっていた。
2024.8.11 撮影



桐生市ホームページより引用

墳丘に建つ
「八五郎稲荷神社」
伝説や由来を調べたが、
確認で出来なかった
2024.8.11 西側より撮影



2024.8.11 南側より撮影

3-(4) 三津屋古墳(7世紀後半)

北群馬郡吉岡町大字大久保字三津屋2037-1

正八角形

全国でも極めて珍しい正八角形墳である。

三津屋古墳は土地の造成工事に先行して行なわれた竹林伐採作業中に偶然発見された。

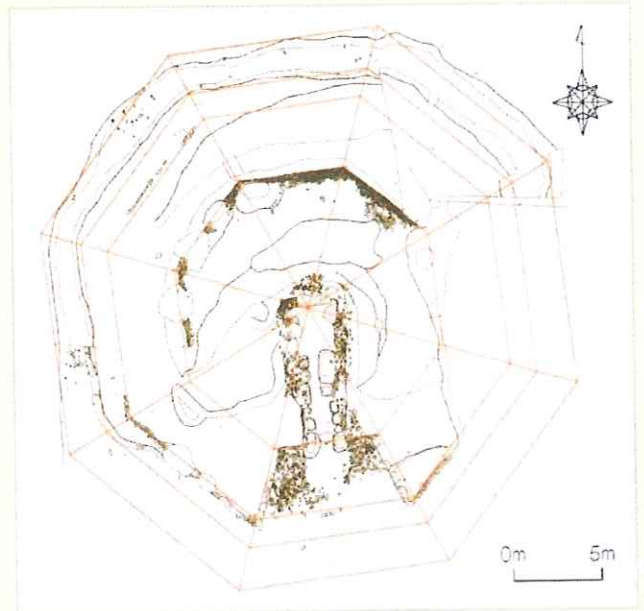
平成5年からの調査の結果、八角墳であり、墳丘を大きく2段階に分けて土を盛り上げた構造で、第二段目の表面は葺石で覆われており、周囲には周堀が巡ることがわかったようだ。

現在の三津屋古墳は、住宅街の中にあるのであまり目立たない。写真でもわかるように北～西面が古墳よりかなり土地の高さがある。しかし斜面に造られた為、当初は見晴らしがよく、有力者の古墳らしく、下方からも目立っていたのではないかと推測される。

石室室内に入ると盛土の断面が確認でき、パネルの説明の中で「寺院の建物基壇などに用いる「版築(はんちく)」と呼ばれる工法によいたもので通常の古墳と異なる本古墳の特徴のひとつになっています」と記載がある。

ちなみに版築は強固な墳丘の基礎として採用され、奈良県の牽牛塚古墳でも確認されている。

さらに三津屋古墳から南東約2.5kmには、7世紀中葉に築造された宝塔山古墳(総社古墳群の1基で、1辺66mの大きな方墳)があり、この古墳の石室は仏教文化の影響を受けた装飾のある石室があることなどから、少なからず仏教の影響を受けているとは考えられないだろうか。



古墳平面図

三津屋古墳パンフレットより引用



2024.8.14撮影(南側より)
参考に私の身長は約152cm



2024.8.14撮影 石室内



盛土は10cmから20cmほどの厚さで横縞状(板状)になり、つき固めながらいねいに土を積み上げていることが良くわかる。
(石室内パネル説明文より)

三津屋古墳が造られた7世紀末は、大王墓として八角墳が造られていた。東国で力があったと考えられる上毛野国(のちに上野国)は中央との往来も頻繁にあったと考えられ、八角墳の存在や構築方法を知っている人材がいたのではないかな。

三津屋古墳の周辺には南下古墳群など、多くの古墳が存在する。その中でも八角形は採用された古墳は1基のみだ。埋葬者は豪族・渡来系人物などが推定されるが、はっきりしていない。

しかし、あくまでも想像の範囲だが、もしかしたら大王の親族や近い臣下が、中央集権国家の基礎固めとして上毛野国へ来訪し、この地で亡くなったため特別に八角墳を造ったのかも知れない。

宝塔山古墳の家型石棺。足部分は格狭間という形に加工されくり抜かれている。これは仏具の足と共通しているといわれ、仏教時大きな影響を受けていたと言われる。



群馬の情報サイト WE♥群馬
より引用

南下古墳群の
南下A号古墳。
三津屋古墳と
同じ7世紀後半
の築造だ。

2024.8.15
撮影



4. まとめ

結論として、群馬県内の八角墳の埋葬者は天皇および親族の可能性は極めて低いと考えられる。しかし、どの古墳の埋葬者も有力者であった可能性は高い。

八角形の墳墓として築造された推測として、

◇伊勢塚古墳・一本杉古墳は、渡来系氏族が多く住む土地柄もあり、大陸文化の影響などから有力者として八角形の古墳を独自に造られたのではないかと考えられる。

◇武井廃寺塔跡は、火葬墓の有力説や新里町内に仏教の伝搬に関わる文化財が多数あることから、仏教の影響(供養塔としての八角円堂の建立など)が強いと考えられる。

◇三津屋古墳は、他の3基と同様に埋葬者は天皇の可能性は極めて低いが、親族となると全く可能性が無いわけではないように思う。しかしながら、八角墳としては仏教の影響や、中央との往来の中で新しい形の古墳として知識を得て、築造されたのではないかな。

以上である。

最後に、レポートを作成するのにあたって、色々な調査書や文献にふれる事が出来た。

内容が難しく、理解出来ない箇所も多々あったが調査書の経緯や経過を読むと、古墳などの遺跡を残してい工夫や苦労がよくわかり、遺跡の保存は調査をする県や市だけでなく、その地域の住民も一体で残していく事が大事だと思った。

群馬県は貴重な古墳がたくさんあるが、まだまだ、その存在をアピール出来ていないように思う。これをきっかけに、知識を増やし、後に遺跡保存や県内の古墳の良さを国内外に知ってもらえるように頑張りたいと思う。

【引用・参考文献】

群馬の古墳物語-東国の古墳と文化を探る-(下巻) 2018.11.4

列島の考古学 古墳時代 2011.8.30

古墳時代Ⅰ【古墳】群馬の遺跡4 平成16年11月25日

大和の終末期古墳 2005年4月20日

群馬県立歴史博物館紀要 第22号 平成13年3月31日

考古学ジャーナル 414.1997

三津屋古墳 吉岡町文化財調査報告書 2007.5

伊勢塚古墳 十二天塚古墳 範囲確認調査報告書Ⅲ 1988

三津谷古墳 パンフレット(吉岡町教育委員会 文化財センター)

藤岡歴史館周辺の古墳(白石古墳群)パンフレット

史跡 牽牛子塚古墳 越塚御門古墳 パンフレット(明日香村)

[武井廃寺塔跡 | 桐生市ホームページ \(kiryu.lg.jp\)](http://kiryu.lg.jp)

[三津屋古墳 | 文化財 | 吉岡町観光情報 \(town.yoshioka.gunma.jp\)](http://town.yoshioka.gunma.jp)

[神保古墳群 - 高崎市文化財情報 - 高崎市公式ホームページ \(city.takasaki.gunma.jp\)](http://city.takasaki.gunma.jp)

[伊勢塚古墳 / 藤岡市 \(city.fujioka.gunma.jp\)](http://city.fujioka.gunma.jp)

[牽牛子塚古墳 | 明日香村 公式ホームページ \(asukamura.jp\)](http://asukamura.jp)

[よみがえる古代の大和 「大王陵から天皇陵へ」: 東京新聞 TOKYO Web \(tokyo-np.co.jp\)](http://tokyo-np.co.jp)

[三津屋古墳 | レアな美しいフォルムの八角墳! 石室見学で古代ロマンを体感しよう \(we-love.gunma.jp\)](http://we-love.gunma.jp)

[八隅\(やすみ\)とは? 意味・読み方・使い方をわかりやすく解説 - goo国語辞書](http://goo辞書)

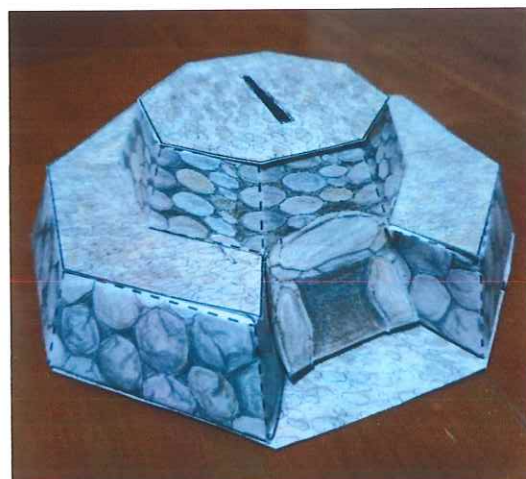
※各施設職員の皆さま ご説明及び質問へのご回答ありがとうございました。

群馬県立歴史博物館

群馬県立図書館

藤岡歴史館

吉岡町文化財センター



吉岡町文化財センターでいただいた三津屋古墳のペーパークラフトを作成した。古墳の写真を見ながら色鉛筆で彩色したので、石の積み方などが改めて確認出来た。

ちなみに貯金箱になっている。